

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境					0.40		-		4.0
1 音環境				4.0	0.15		-		4.0
1.1 室内騒音レベル		NC-45以下となるように消音エルボ、サイレンサーを各所に設置		4.0	0.40		-		
1.2 遮音				4.2	0.40		-		
1 開口部遮音性能		開口部の遮音等級T-2以上		5.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		2面(床、天井)に吸音材を使用		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				4.0	0.35		-		4.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		事務室内で45%から55%の湿度が実現する設備容量を確保		5.0	0.20		-		
2.3 空調方式		フロアフロー空調を採用		5.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.4	0.25		-		3.4
3.1 昼光利用				2.2	0.30		-		
1 昼光率				1.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備		トップライトを採用		4.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度		事務室内でデスク照度が500lx以上1000lx未満		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		1作業単位で明るさの照明制御可能		5.0	0.25		-		
4 空気質環境				4.7	0.25		-		4.7
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を床・壁・天井に使用、VOC放散量が少ない建材使用		5.0	1.00		-		
4.2 換気				4.0	0.30		-		
1 換気量		居室の換気量を30m ³ /h・人とする		4.0	0.33		-		
2 自然換気性能		外気冷房の採用し、必要外気換気量が2倍以上		4.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口を屋上に設け、かつ排気から6m以上離れて設置		4.0	0.33		-		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		CO ₂ 濃度を中央監視で常時監視		5.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙仕様		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					0.30		-		4.0
1 機能性				4.0	0.40		-		4.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たす		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室内での天高を2.7m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		事務室の1%以上、自動販売機の設置		5.0	0.33		-		
3 内装計画		照明計画と内装計画が一体計画		5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		維持管理方法が大きく異なる床材を接近させていない		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		各トイレSKの設置、洗い場あり		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.7	0.30		-		3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法の1.25倍の保有水平耐力を確保		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		執務室の床、壁、天井仕上材の更新必要間隔20年以上		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		外部ダクトにガルバリウムを使用		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用		4.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.8	0.20		-		
1 空調・換気設備		空調配管・ダクトに耐震吊の対策を行っている		5.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備		非常用発電設備を備えている		5.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			4.4	0.30	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高が4.1m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1%以上0.3%未満に該当	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	-	-	
			積載荷重が4500N/m2以上				
3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	配線ルートを予め構築するため仕上げ材を傷めずに更新可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	配線ルートを予め構築するため仕上げ材を傷めずに更新可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新ルートを確保し、かつ建物機能を維持可能	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
			周辺環境を考慮した意匠・素材・色彩				
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
			ボイド等を通じて開放的な内部空間の創出				
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
			BPI=0.71				
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
			トップライト、開閉窓を導入				
3 設備システムの高効率化			5.0	0.50	-	-	5.0
			[BEI][BEIm] = 0.35				
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
			集合住宅以外の評価				
4.1	モニタリング	BEMSの使用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	webプログラムにより、年間エネルギー消費量を計算	4.0	0.50	-	-	
			集合住宅の評価				
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
			自動水栓と擬音装置の設置				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
			特定調達品目(ビニル床材)、エコマーク(ビニル床材、デッキ材)				
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
			躯体+軽鉄+仕上材のディテールの採用、OAフロアの採用				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
			対象物質を含有しない建材種別が4つ以上				
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			5.0	0.33	-	-	5.0
			LCCO2排出率=49%				
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪スペース、駐車場の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収のための空間設備を設置	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	